

分科会名	第2分科会 研究課題「子どもの発達に関する課題」
研究主題	生徒が活躍する学校行事の取り組み ～自他共に認め合い、将来社会で貢献できる生徒の育成をするための教頭の役割～
提言者	所属：小城多久地区教頭会 学校名：小城市立小城中学校 氏名：澁谷 俊昭
紙 面 協 議 の ま と め	<p>【発表内容についての所感】</p> <p>研究資料にあるように新学習指導要領では、これからの社会を生きる児童生徒に必要な資質・能力として「生きて働く知識・理解」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」が示されている。</p> <p>小中学生にとって、児童会活動や生徒会活動は、学校や学級という小社会の中で、よりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる場であり、将来社会で貢献できる児童生徒の資質・能力を発揮し、育成する重要な場である。</p> <p>今回の研究は、学校行事にスポットを当て、生徒の「出番」と「役割」を設定し、その成果を「承認」することで、生徒の自尊感情と自己有用感を高めるためのより良い教師の関わり方や指導・支援を構築する教頭としてのカリキュラムマネジメントと組織マネジメントをわかりやすくまとめられている。</p> <p>特に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための2度にわたる臨時休業というこれまでになかった厳しい状況下でも、教頭がポジティブな気持ちと柔軟な発想、先を見通した指導助言を行うことで、電子黒板を活用した生徒会総会を開催できたことは、教職員はもちろん、生徒にもピンチをチャンスに変えるチャレンジ精神を植え付けることになったのではないかと思う。</p> <p>資料作成時期からここには紹介されていませんが、今年度の体育大会や合唱コンクールでも、新型コロナウイルス感染症というこれまでにない状況のもとで、開催方法を生徒と教職員で創り上げた。また、実際に学校行事を行っていく中でも直面したさまざまな課題解決に向けて取り組む中で、「生きて働く知識・理解」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」が発揮され、育まれたことだと思う。</p> <p>地区教頭会において、各学校での取り組みを共有していくことが、更に教頭として視野を広げ、児童生徒だけでなく、教職員の資質・能力を高めることにつながっていくと思う。</p>
研 究 部 長 よ り	<p>昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大は、学校の諸活動に大きな影響を与えた。特に学校行事は「3密」となる状況が多く発生するため、行事の縮小や見直しが迫られた。また、教師の働き方改革の面からも、学校行事の精選や縮小、見直しを図ることが増えている。しかし、学校行事は、今回の研究テーマで示されているように、児童生徒が活躍する場であり、将来社会で貢献できる児童生徒の資質・能力を育む重要な場でもある。つい、精選や縮小に向かいがちになる時、児童生徒を育成するという目的を見据え、学校としての方針や手立てを指し示すことが教頭としての重要な職務となると考える。</p> <p>(小城市立小城中学校 澁谷 俊明)</p>